

第4回エネルギー輸送ルートの多様化への対応に関する検討会  
議事概要

日時：平成27年4月10日（金）14：30～16：30

場所：中央合同庁舎3号館11階特別会議室

議事概要：

- (1) 一般財団法人日本エネルギー経済研究所から、原油価格下落を踏まえた、我が国のエネルギー調達の現状について説明を行った後、構成員から主に以下のような発言があった。
- シェールガス案件は着実に生産に向け進んでいるが、その他の案件については、原油価格の下落を受け、売り先の確保等に時間がかかっており、生産開始時期に遅れが生じる見込み。一方で、長期的には、クリーンエネルギーであるLNGの需要は高まっていくと考えており、世界各地でのLNG開発を進めていく予定。
  - 原油価格の下落に伴い、可能な限りコスト削減を追求している。従来の日本、韓国、台湾に加え、東南アジア、中東等へも販路拡大を目指している。
  - エネルギー供給事業者としては、原油価格下落は、顧客に対する安価な供給に繋がるため、ポジティブに捉えている。また、北米からのLNGの調達は価格変動や地勢学的リスクの回避のため、重要である。
  - 調達先の多様化によって、様々な環境変化に対応できる強靱な体制を目指す。
  - 市場変動リスクに対応するため、調達先の多様化のみならず、価格指標の多様化が重要。
- (2) 事務局から、我が国のエネルギー調達の状況とLNG運搬船の受注動向について説明を行ったあと、構成員から主に以下のような発言があった。
- 近年の日本のLNG船の受注環境は輸送効率の向上、円安の恩恵により、韓国に対しても競争力を発揮し、順調に受注を重ねることができた。

しかしながら、原油安によって新造船の案件が停滞しているように感じる。次期プロジェクトに向け、新パナマ運河に対応したLNG船における大型タンクの開発を進めたい。

- 原油安の影響で造船会社による発注が低迷している。大型化による輸送効率の向上等を進めたい。
- 大型船のエンジンについては、当社の予想よりも受注が鈍い。
- 予定隻数を受注済み。これはシェールガスの案件が順調であることが要因であると考え。一方で、国内のLNG需要量は頭打ちだと思われるので、今後は中印向けの輸送船を請け負っていきたい。

(3) 事務局から、シェールガス輸送、北極海航路及び液化水素輸送に係る現在の取組状況について、平成27年度予算事業を中心に説明を行った後、構成員から主に以下のような発言があった。

- LNG船受注は全体的に停滞しており、様子見という印象。日本の造船事業者の供給能力を超える需要が生じた時にどのように支援していくかが、課題。
- LNGの輸入源の多様化が進んでいくと、海上輸送ルートも多様化していくものと思われる。輸送ルートが増えると海上のチョークポイントも増えるが、その中でも新パナマ運河がLNG船には重要となるので、民間のチャンネルだけでなく、政府間のチャンネルも非常に有意義。
- LNGのメリットとして、産地の多様化があるが、エネルギー安全保障上重要であると実感している。エンジンをはじめとする技術開発は日進月歩であるので、新規の取組を進めていきたい。

以上